

県外派遣報告書

審判員名	駒村 匡昭	所属	高体連
大会名	第57回全国高体連審判研修会及び平成28年度全国高等学校総合体育大会		
期間	平成28年7月27日(水)～31日(日)		
会場	広島サンプラザ、県立総合体育館、安佐北区スポーツセンター、東区スポーツセンター		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
7月27日(水)	第57回全国高体連審判研修会開講式	広島サンプラザ	
7月28日(木)	判別トレーニング、モデルゲーム、講義	広島サンプラザ	
7月29日(金)	判別トレーニング、モデルゲーム、閉講式	広島サンプラザ	
7月30日(土)	審判会議	広島サンプラザ	
7月31日(日)	1回戦 県立鳴門渦潮(徳島) - 開志国際(新潟)	安佐北区スポーツセンター	
研修会開講式 内容			
<p>「信頼される判定をするために～ルール、マニュアルの正しい理解と適用～」というテーマで、講師の渡邊整氏より全体講義が行われた。Ⅰ)研修会・本大会に臨むにあたっての心構え、Ⅱ)テーマについて(・正しい判定を積み上げていくこと、・公正公平な判定をしていくこと、・感情的な判定(審判)をしないこと)、Ⅲ)健康管理と言動について、という内容で話があった。</p> <p>全体講義後に判別ミーティングが行われ、担当講師の方からの挨拶のあと、各自の自己紹介と現在の課題について話がされた。</p>			
班別トレーニング、モデルゲーム			
1日目	期 日	7月28日(木)	会場 広島サンプラザ
トレーニング内容		講師: 岩木 太郎 氏 ・ 渡邊 整 氏	
<p>①ウォーミングアップ ②ボールの移動に伴うリードの位置取り →セットアップポジション、クローズダウンなどの用語の説明と運用について ③45° のスクリーンからの2対2 →スクリーンがリーガルなのかイリーガルなのかの見極め、トレール・リードの位置取り ④オールコート3対3でのリードとトレールの連携練習 →トレールはボールマンを追い抜かず追従する。リードは相手(トレール)の状況を見て、残るのかリードに入るのかを判断する。</p>			
<p>講師より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リードで右に行くことは誰もが悩む。お互いの協力、約束事で判定がうまくいくようになる。 ・笛を吹いて満足しないこと。確認することが大切であり、見ているもの、見ていたものを判定する。そのために、アングルや身体の向きを工夫する。 			
モデルゲーム			
担当試合	対戦カード	四日市工業(三重) VS 八王子(東京)	主審 副審
	相手審判	斉藤 嶺 氏(静岡)	
ミーティング内容		講師: 渡邊 整 氏	
<ul style="list-style-type: none"> ・プレーを長く見ることが大切。バスケットのプレーを理解し、接触の責任がどちらにあるのかを正しく見極めること。 ・特徴のあるプレーヤーを早く把握する。 ・リードの時にプレーに応じてもっと細かく動く。 			

「判定に対する心構え」についてお話し頂いた。
 (知識・経験)→(実行)→【気づき】→(確認)→(判定)という判定までの流れの中で、【気づき】をいかに多く持ち、重要なプレーをいかに長く見るかが大切。
 映像を見ながら、トラヴェリング、ディフェンスの手の使い方、オフンスファールについて確認した。
 コートに立つ上で必要な心構えとして、「自分の強さと弱さを知る」、「今までの自分を超越る」、「審判も戦いである」という3点をアドバイス頂いた。

班別トレーニング、モデルゲーム、閉講式

2日目	期 日	7月29日(金)	会場	広島サンプラザ
トレーニング内容			講師: 岩木 太郎 氏 ・ 渡邊 整 氏	

- ①ウォーミングアップ
- ②ハーフコート3対3(サイドスローイン、ショットクロック残り5秒)
→2人の審判がそれぞれにアングルを意識することが大切。
- ③ハーフコート4対4(ハイポストでのUCLAカットを見る)
→オフボールでのスクリーンプレーを判定する。あらかじめ予測し良い位置取りをすること。
- ④オールコート4対4(フリースロー後、1分間のラリー形式)
→ストレートラインでの判定をしないために位置取りを工夫する。リードがストレートラインであるならばトレールが協力し判定をする。ショットクロックの確認、ラストショットの見極めは常に気にしなければならない。

講師より

- ・判定には必ず2人の協力が必要である。
- ・現象には予兆とストーリーがある。それに気づき、見て、判定する。
- ・大切なのはアングルをとること。ノーワーキングエリアは立ち止まってはならないだけで判定はしてもよい。必ずプレーを受けに行く努力を続ける。

1回戦

	期 日	7月31日(日)	男子	1回戦
担当試合	対戦カード	県立鳴門渦潮(徳島) VS 開志国際(新潟)	主審	副審
	相手審判	橘 貴志 氏(岩手)		

ミーティング内容

講師:相原 伸康 氏

- ・点差がついた試合であったが、全体的に特に問題はなかった。
- ・長身選手のオフンスでの手の使い方を整理した方が良いものがあった。

全体を通して

初めて研修生としてインターハイに参加させていただきました。この1週間を通して自分がやってきたことが正しいと確認できたことがたくさんありました。しかし、まだまだ足りない部分があるとも感じました。特に、ルールの理解はもちろんのこと、バスケットの理解、技術・戦術の理解を深めていく必要があると感じました。それらを今後の活動に生かし、今後も担当試合に真摯に取り組んでいきたいと思えます。

広島県バスケットボール協会、広島県高体連の方々には準備段階から大会当日まで細部にわたり配慮いただきありがとうございました。そして、貴重な機会を設けていただいた講師の先生方にも感謝申し上げます。

最後になりますが、埼玉県協会、埼玉県高体連の皆様にも御礼申し上げます。県を代表し研修生として大会に派遣いただきましてありがとうございました。今後、県内においてはこれらの経験、情報を多くの審判員に伝えていければと思っております。本当にありがとうございました。